

「東京都 江戸川区」様

- 所在地／江戸川区中央1-4-1 ●TEL／03-3652-1151 (代表)
- mcAccess使用状況／mcAccess e (2005年8月導入・297台利用)

平常業務の無線活用でリテラシーを磨く

最新技術を使ったきめ細かい通信網で、ネットワークを充実。



土木部災害対策課の山口正幸課長。

GPS機能とPSTN接続を導入した先端事例

満潮時の海面より標高が低いゼロメートル地帯が、面積の約7割を占める江戸川区。そのまちづくりは、水との闘いの歴史である。

「江戸川区はハリケーンで大きな被害を受けたアメリカのニューオーリンズと似た地形で、水害はまちの宿命とも言えます。それだけに、区と住民の方々が一丸となった水害対策には、長い歴史があるのです」と、土木部災害対策課の山口正幸課長は語る。

「長靴をはかなくても歩ける町」を目指して昭和40年代後半から進められた下水道整備、スーパー堤防の建設など、水との闘いは現在もなお続いている。

だが、こうした災害リスクの存在は、区の職員全員の防災意識を飛躍的に高めた。それが高いレベルで結実したのが、非常時通信網構築への取り組みである。

江戸川区では2005（平成17）年、耐用年数の満了から旧防災無線システムの更新を検討。多くの通信手段を、機能やコスト面からシミ

ユレートした。そこで有力な導入候補として浮上したのが、展示会で出合った mcAccess e だった。

「当時もう1つの候補として挙がっていたデジタル地域防災無線と比較検討して、最終的に mcAccess e に決定しました。コスト面の優位もさることながら、基地局建造の必要がないなど設置に必要な時間が短いという点が導入の決め手となりました。災害はいつ起こるかわかりません。新システム稼働までの時間はできる限り短縮したいと考えていたのです」（山口課長）

システム構築にあたっては、「GPS機能」と「PSTN接続」という2つの応用機能を採用した。

無線機を搭載した庁用車の動きを、庁舎内で瞬時に把握できるのがGPS機能である。土木部災害対策課などに設置されたモニター上で、全車両の状況が常に把握できるので、非常時に的確な初動体制を敷くために大きな力を発揮する。

一方のPSTN接続は、庁舎内の電話交換機に基地局用無線機を接続することで、庁舎の電話機と庁用車や区の施設の無線機とで直接通話できるシステムである。自分のデスクの電話への着信を庁用車内で受けたり、無線機から外線発信することも可能だ。

「それまでは、無線機が課に配置されても一定の場所に置かれたままになっていることが多く、職員にとって身近なものとは言えませんでした。しかし、日頃使い慣れている机の上の電話から通話できるのであれば、無線機への連絡回数も



環境部環境推進課の桑江一久課長（写真左）。庁用車に搭載されたmcAccess eで連絡する土木部災害対策課の関口幸夫主事（写真上）。

増えるでしょう。そうやって、平常業務の中で無線によるネットワークを一杯活用するようにしていくべきだと考えたのです」（山口課長）

防犯パトロールと連携して mcAccess e を使いこなす

災害時の備えとしての無線も、いざというときに使いこなせなければ宝の持ち腐れだ。防災意識の高い江戸川区は、このことを強く認識していた。職員が無線機に熟達するよう、月に一度の訓練に加え、平常時にも可能な限り無線を使う機会を増やしている。

たとえば、「無線を使った不審者情報の配信」。学校などからの通報で教育委員会に集約された地域内の不審者情報を、庁用車や子供が集まる区の施設などに配備された計241局の無線を駆使して迅速に伝え、注意を促すものだ。庁用車による防犯パトロールなど、早くから「安全・安心まちづくり」の実現に力を入れてきた江戸川区ならではの活用法と言えるだろう。「不審者の目撃地点のそばにいる職員は、即座に警戒態勢をとれます。不審者と遭遇したら、無線機から電話回線を経由して直接110番通報することも可能です」と、担当の環境部環境推進課の桑江一久課長。「日常のパトロールの中で使えば無線機にも馴染みますし、使いこなしていけば、また新たな活用のアイデアも生まれると思うんです」。

ハードとソフトの両輪で 防災体制レベルを底上げ

05年に144局のmcAccess eを導入した



mcAccess eが配備された施設「共育プラザ南小岩」。災害時の活用はもちろん、子供が多く集まる場所だけに、不審者情報も配信される。

江戸川区では、年度ごとに、主に現場寄りの事務所などに増設し、07年現在、計297局を運用している。

区の隅々にまで届く細やかな無線網をつくり、庁舎に集まる情報の精度を高め、区を管轄する警察署や消防署にも配置、医師会ともネットワークを築くなど、通信網は日々充実しつつある。07年夏には新潟県中越沖地震の救援にも携わったが、「通信網が吸い上げる被災情報の有用性をあらためて実感しました。どこで何が足りないかを明確に伝えることが、救助に当たる方々の厚意を無駄にしない効果的な救助活動を進めることにつながる。無線の役割は大きいですよ」（山口課長）。

最新技術を使ったきめの細かい通信網、それを最大に生かす使い手のリテラシー。ハードとソフトの両輪で発展し続ける江戸川区の非常時通信網は、防災無線の理想的なあり方を提示する先進事例だ。日頃からの、一人ひとりの高い防災意識がそれを支えていることは言うまでもない。

POINT

- コストカットが可能
- 基地局建造の必要がなく、設置にかかる時間が短い



無線機と電話回線を接続するPSTN設備（写真上）とGPS機能を使って表示される庁用車の位置。